※令和４年度以降入学生用

学校番号	４１６

令和５年度　地歴公民科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『現代の歴史総合　みる・読みとく・考える』　（山川出版社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史総合は世界史と日本史を組み合わせ、グローバルな視点から我々の歴史を見ることが求められる新科目です。様々な資料を読み解き、現代の諸課題（差別・貧困など）が歴史的にどのように形成されてきたのかを理解し、自らの言葉で表現していきます。歴史は暗記というイメージかもしれませんが、歴史総合で必要となる学習は、根気よく資料や教科書を読み解き、問いに対して自らの頭で考え、答えを表現していく力です。さらに、自ら問いを表現していく力をつけることも目指します。

２　学習の到達目標

現代の諸課題が歴史的にどのように形成されてきたかについて、諸資料をもとに理解し、自らの言葉で表現する。さらに、自ら問いを表現し、歴史的な見方・考え方から自分なりの答えを見出していく。他者と協働しつつこれらの力を養うことで、主権者として必要とされる批判的思考などの資質・能力を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	歴史の扉	歴史の特質と資料　歴史資料とは何だろうか	a:資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。 b:①資料や図版などから適切に情報を読みとり、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断している。 ②複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読みとった情報の意味や意義、特色などを整理し、表現している。 c:①資料から読みとったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。 ②資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査 振り返り
	第Ⅰ部　近代化と私たち	第 1 章 結びつく世界と日本の開国 1 18 世紀の東アジアにおける社会と経済 2 貿易が結んだ世界と日本 3 産業革命 4 中国の開港と日本の開国	a:① 18世紀の東アジアにおける社会と経済の特徴を、欧米との関係を踏まえつつ理解している。 ②産業革命によって加速した世界の一体化が、どのように進み、どのような影響をおよぼしたのかを理解する。 ｂ：①諸資料を読みとくことで、近世の中国と日本の社会と経済の特徴について考察している。 ②産業革命が人々の生活に与えた影響をふまえ、豊かさとは何かについて考察している。 ｃ：①18 世紀の中国や日本と世界の結びつきについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ②産業革命の進展について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査

※令和４年度以降入学生用

		第 2 章 国民国家と明治維新 1 市民革命 2 国民国家とナショナリズム 3 明治維新 4 日本の産業革命 5 帝国主義 6 変容する東アジアの国際秩序 7 日露戦争と東アジアの変動	a:①国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察する。 ②産業革命にともなう、日本の産業界の変容と再編の過程について理解する。 ③帝国主義がアジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。 ｂ：①欧米諸国の立憲体制と比較しつつ明治維新の特色や課題を考察している。 ②日本の産業革命の特徴について、欧米の事例と比較しながら追究している。 ③諸資料から、帝国主義を進めた諸国の共通点と相違点を考察している。 ｃ：①「国民」という自明な概念について、歴史的な経緯をふまえ、あらためてその意味について自分なりに追究しようとしている。 ②産業革命と社会問題がどのように関連し、現代の諸課題とも結びつくのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 ③植民地とされた地域には現在まで続く問題があることに気づき、このような歴史と現在の関係の類例がほかにないかについて、主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査

※令和４年度以降入学生用

2	第Ⅱ部　国際秩序の変化や大衆化と私たち	第3章　総力戦と社会運動 1　第一次世界大戦の展開 2　ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 3　ヴェルサイユ体制とワシントン体制 4　世界経済の変容と日本 5　アジアのナショナリズム 6　大衆の政治参加 7　消費社会と大衆文化	A①諸資料からヴェルサイユ体制・ワシントン体制の内容と特徴・課題を理解している。 ②諸資料から、アジアの民族運動の様相とその相違を理解している。 b：①諸資料から、第一次世界大戦の特徴と影響について、それまでの戦争と比較したうえで考察している。 ②社会主義革命の波及を、諸外国はなぜ恐れたのかについて考察している。 ③諸資料の読みとりを通して、大正デモクラシーが、世界的な流れを受けて成長したことを考察している。 ④諸資料を活用しながら、大量生産・消費がもたらした大衆文化の広がりと、新たな課題について考察している。 C：①総力戦体制がとられた国家における人々の生活状況をふまえ、どのような問題点があるのか主体的に考察しようとしている。 ②第一次世界大戦以降の経済状況の変容について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ③第一次世界大戦後に高揚したアジアのナショナリズムについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査

※令和４年度以降入学生用

		第4章　経済危機と第二次世界大戦 1　世界恐慌の時代 2　ファシズムの伸長と共産主義 3　日中戦争への道 4　第二次世界大戦の展開 5　第二次世界大戦下の社会 6　国際連合と国際経済体制 7　占領と戦後改革 8　冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 9　日本の独立と日米安全保障条約	a：①グラフや統計などの諸資料を読みとり、世界恐慌前後の各国の経済状況の画期や政策の転換点および恐慌の影響について理解している。 ②諸資料から第二次世界大戦における民衆動員が女性や植民地民衆など広大な範囲で展開されたこと、および戦争の被害、組織的虐待などで一般市民の大規模な犠牲が生じたことを理解している。 ③イタリアやドイツでファシズムが伸長した背景とその特徴・影響について、諸資料の比較・分析を通して理解する。 ｂ：①地図や諸資料の読みとりを通して、満洲事変と日中戦争がどこで展開し、どのような被害があったかについて考察し、表現している。 ②連合国を中心とする戦後構想の推移とそのなかで生じた米・英・ソ間の軋轢と戦後世界への影響を考察し、表現している。 ③第二次世界大戦後の日本のおかれた状況に着目して、新たな国際体制が日本のにどのような影響を与えたのかを考察し、表現している。 ｃ：①世界恐慌以降の経済危機と中国における国内変化が、日本の政治や軍事行動にどのような影響を与えたのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ②第二次世界大戦後の世界が、戦禍の反省のうえに成り立っているという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 ③第二次世界大戦は人々にとってどのような経験であったのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査

※令和４年度以降入学生用

3	第Ⅲ部　グローバル化と私たち	第5章　冷戦と世界経済 1　冷戦下の地域紛争と脱植民地化 2　東西両陣営の動向と1960 年代の社会 3　軍拡競争から緊張緩和へ 4　地域連携の形成と展開 5　計画経済とその波及 6　日本の高度経済成長 7　アジアのなかの戦後日本	a:①諸資料から、冷戦がアジア・アフリカ諸国に対して与えた影響および冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の反応を理解する。 ②東西両陣営の社会の変容を、アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国の関係およびソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力などを通じて理解する。 ③諸資料をもとに高度経済成長へと至る経緯について整理し、国際的・国内的な諸条件にもとづいて高度経済成長が達成されたことを理解している。 b:①核兵器の開発とそれにともなう諸問題について、日本や世界の社会背景と結びつけて考察しようとしている。 ②諸資料の比較・分析を通して、日本の高度経済成長の意義や課題について自身の意見を構築しようとしている。 ③日本と東アジア諸国の関係や沖縄をめぐる課題が、アメリカ合衆国の東アジア政策の変化と関わりをもって展開したことを、資料から考察する c:①第三勢力の動向が冷戦構造にどのような影響を与えたかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 ②1950 年代・60 年代の東西両陣営の社会の変容について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ③核兵器の開発と抑制の動きの歴史的背景について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査

※令和４年度以降入学生用

		第6章　世界秩序の変容と日本 1　石油危機 2　アジア諸地域の経済発展 3　市場開放と経済の自由化 4　情報技術革命とグローバリゼーション 5　冷戦の終結とソ連の崩壊 6　現代の東アジア 7　東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 8　地域統合の拡大と変容 9　地域紛争と国際社会 10　現代と私たち	a: ①20 世紀後半の環境問題について理解する。 ②19～21 世紀に関する諸資料を読みとり、情報通信網が核時代の国際経済体制の構築に果たした役割を理解している。 ③東アジア諸国が経済成長を達成する一方で、高度経済成長終焉後の日本が抱えた課題や東アジア諸国との関わりの変化について理解している。 b:①アジア NIES と ASEAN の成長に関する諸資料を、開発独裁の特徴と関連づけながら考察している。 ②新自由主義についての諸資料を用いながら、その推移の背景にある歴史事象について考察している。 ③諸資料の比較、分析を通して高度情報化社会や知識基盤型社会の到来について自身の意見を構築しようとしている。 ④諸資料を読みとき、冷戦終結の歴史的背景について考察しようとしている。 c:①オイル＝ショックとドル＝ショックに関する諸資料を読みとるなかで、現代の諸問題や自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ②情報技術革命は世界をどのように変えたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ③冷戦の終結は何をもたらしたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。	定期考査	定期考査 振り返り	定期考査

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度